

公益財団法人 大学セミナーハウス

開館50周年記念事業

募金趣意書



大学セミナーハウスが
日本のそして世界の学術の創造に
貢献していく

伝統・革新・次の50年



公益財団法人 大学セミナーハウス
INTER-UNIVERSITY SEMINAR HOUSE

50th
Anniversary
Since 1965

募金の趣旨・目的 ー 次の50年に向けて ー

大学セミナーハウスは、2015年7月5日に、開館50周年を迎えます。先達たちは、これまでの幾多の困難を乗り越えて、開館の理念である「学生と教員が寝食を共にして学びあう場」と「国公立の壁を越えたネットワーク構築の場」の充実と発展に努めてまいりました。さらに、大学教育の在り方に先進的方向を提示し、大学共同セミナーの開催、FD活動の定着、大学職員の役割の強化に資する各種セミナー事業を展開してまいりました。近年では、2011年に公益財団法人の認可を受け、また、現在使われていないユニットハウスをアトリエとして、加盟機関や若いアーティストに開放することを通して、アートビレッジの構築を進め、当セミナーハウスの「学生のための総合アートセミナー」に寄与し、新たなイメージ作りにも努めております。

この度は、2015年の開館50周年を契機に、次の50年に向けての礎を築くべく、日本の高等教育の展開に合わせて、大学教育の質保証、グローバル化対応、地域との連携などを視野に、新たなプログラムの展開を検討しております。特に、プロジェクトアドベンチャーを活用した体験型研修プログラム（SPA）の導入を通して、今後の新しい時代に求められる人材育成に貢献いたします。

さらに、老朽化した食堂、宿泊施設、講堂、セミナー室の刷新も問われています。

次の50年を見据え、長期的には、新たな宿泊施設を建設することを視野に、今回の50周年記念事業としては、2012年から2016年を50周年記念事業期間として、喫緊の課題である食堂棟の建設と、あわせて、既存の宿泊研修施設等のリニューアルや、豊かな自然環境を生かした敷地内の活用を図りたいと考えております。

以上、募金の趣旨にご賛同いただきまして、ご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



理事長 佐藤 東洋士

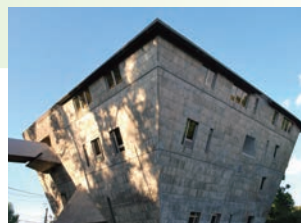


館長 鈴木 康司

ビジョン2015

開館50周年に向けたセミナーハウスビジョン2015

(公財)大学セミナーハウスは、開館50周年を迎える2015(平成27)年を中心に、4年間にわたり、以下の「セミナーハウスビジョン2015」に基づいて、開館50周年記念事業を展開いたします。



✂ 50周年記念事業の3つのビジョン

VISION 1 理念の実現

- (1) 豊かな自然環境の中で学生と教員との小グループが起居を共にし、思索し、討議し、談話を交え、人格的接触を図りながら密度の濃い人生経験を持つための場の提供
- (2) 国公立の壁を越えた学生、教職員のコミュニケーションと交流の場の提供



VISION 2 伝統の継承

- (1) 日本の高等教育の発展に一石を投じるセミナー事業を企画・展開していく
- (2) 全国大学の学生、教職員のための研修プログラムを一層充実させていく



VISION 3 新たな展開 —個性豊かな宿泊研修環境の整備—

- (1) 社会人の研修やセミナー等への活用、生涯学習セミナーの実施、小・中・高校生の野外活動等への場の提供など、幅広く門戸を開放していく
- (2) 芸術性豊かな環境づくりの一環としてアートビレッジ及び「総合アートセミナー」を展開していく
- (3) 多目的広場をベースに、プロジェクトアドベンチャーの手法を活用した体験型研修プログラムの導入を図り、あわせて利用促進につなげていく
- (4) アジアを中心とした各国の留学生や高校生に対し、日本の大学への留学支援を図っていく
- (5) 魅力ある食堂棟を建設する
- (6) 既存施設のリニューアルを通して利用者の一層の便宜をはかる



以上のようなビジョンに基づいて、私たち大学セミナーハウスの運営に関わる全ての者は、次に来る60年、70年…100年のアニバーサリーが関係者から高い評価をもって迎えられるように、鋭意50周年記念事業に取り組んでまいります。



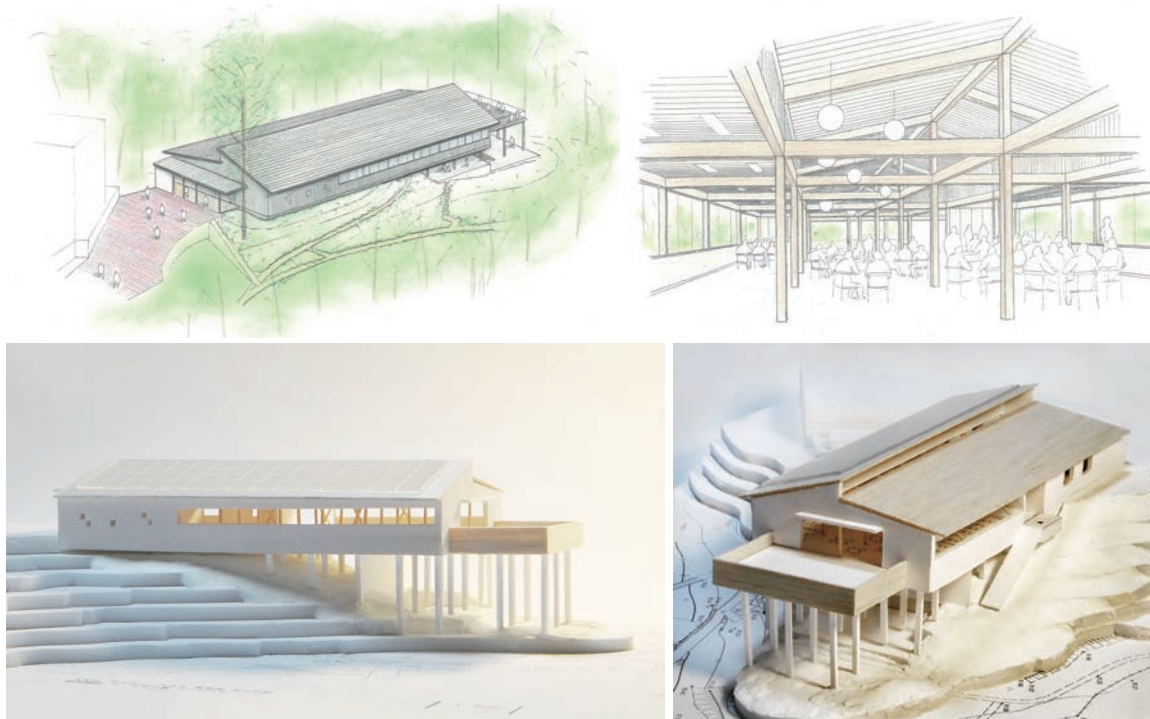
募金概要 …ご支援をよろしくお願い申し上げます。

募金要領

1. 募金の名称 …… 公益財団法人大学セミナーハウス開館50周年記念事業募金
2. 募金の目的 …… 50周年記念事業として、以下の事業を実施するための募金を行います。

(1) 食堂棟の建設

躯体建設費1億2,000万円を前提に、シンプルな構造で、豊かな自然との調和を目指し、環境にも配慮した多摩地域の木材を使った木造平屋建ての食堂棟(座席数最大270席、屋根にソーラーパネルを設置予定)を建設し、より一層のサービスを心掛けていきたいと存じます。立地は、セミナーハウスの一等地でもある、交友館とバーベキュー広場の間の高台を予定しております(図面参照)。眺望に優れ、晴れた日には富士山が眺められ、周辺の美しい夜景を楽しむこともできます。緑あふれる敷地内で、木の香り漂う新食堂棟は、ゼミ合宿や研修の疲れを癒してくれることと思います。また、内部空間をパーティションで仕切ることで、複数の懇親会を同時に行えるスペースを確保します。さらに、食堂棟と隣接してバーベキュー広場を整備しますので、これまで以上に使いやすくなります。着工は2015年で、竣工は2016年の予定です。



〈新食堂棟 完成予想図〉

(2) 既存施設(講堂及び長期館B)のリニューアル

既存施設のリニューアルについては、講堂と長期館Bに限定しました。講堂は、風除室を設けることと、防音対策の観点から2重サッシにするなどの改修を行います。これまで音の出る研修を行う場合、中央セミナー室しかありませんでしたが、今後はより広い講堂も使えるようになります。これについては2014年度中に改修を行うことを予定しております。

長期館Bは、女性専用の風呂の改修とパウダールームの設置等を図るとともに、外壁の補修を行い、女子学生にとって快適な風呂になるように計画しております。なお、すでに記念館のエアコンをすべて新しいものに取り換えましたことを申し添えます。



〈講堂内部〉

(3) 体験型研修プログラム(セミナーハウス・プロジェクトアドベンチャー:SPA)の開発及び展開

50周年記念事業の一環として、2013年に7基のエレメントを多目的広場に設置しました(第1期工事)。このエレメントをツールとし、大学教育の一環として、挑戦、思いやり、当事者意識、課題解決能力、他者との連携をキーワードに、コミュニケーションやチームワークづくりを体験していただきます。ゼミ合宿、クラブ活動、新人研修等の活性化にご活用ください。ご利用の際には、当方でファシリテータをご用意いたしますのでお気軽にご相談ください。



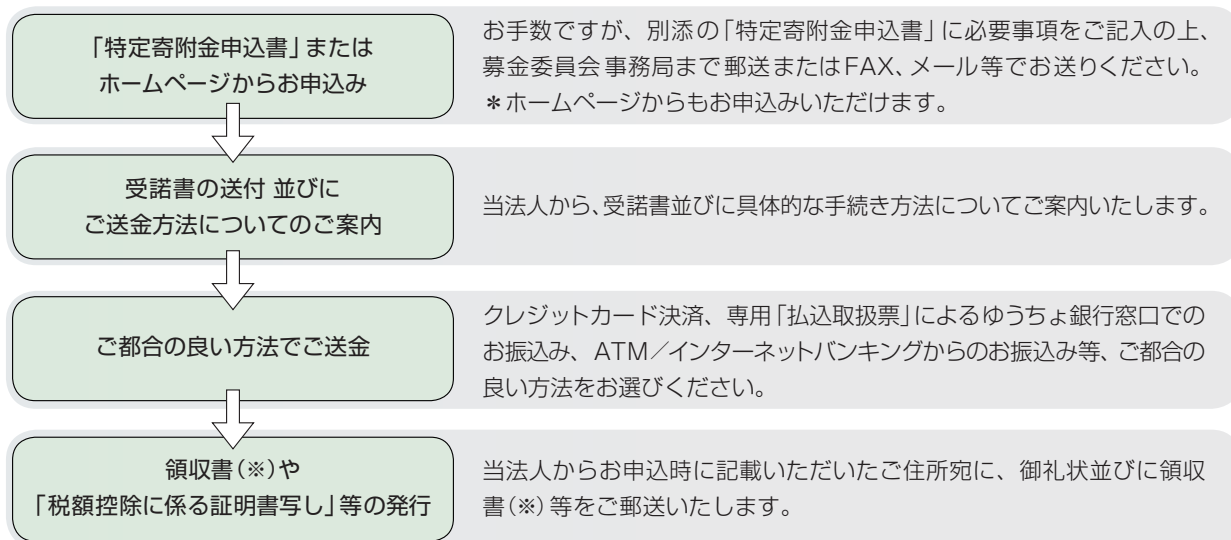
〈エレメントを利用するSPAプログラムの様子〉

- 3. 募金の目標額 …… 1億円
- 4. 募金の対象者 …… 趣旨に賛同いただける皆様
- 5. ご寄附の金額 …… ご支援をよろしく申し上げます。以下の表記以外の金額のご寄附もありがたくお受けいたします。

学校法人・企業等団体	個人
一口5万円以上(10口以上銘板記載)	一口1千円以上(10口以上銘板記載)

- 6. 募集期間 …… 2012(平成24)年11月1日 ~ 2017(平成29)年3月31日

7. ご寄附の払い込み方法



※専用「払込取扱票」により銀行窓口でお振込みをいただいた場合には、当法人から領収書は発行いたしません。
銀行窓口で発行される領収書(受領証)を大切に保管ください。

送付先・連絡先	公益財団法人大学セミナーハウス開館50周年記念事業募金委員会 事務局 〒192-0372 東京都八王子市下柚木 1987-1 TEL 042-676-8512 FAX 042-676-1220 E-mail iush50bokin@seminarhouse.or.jp
----------------	---

- 8. ご寄附者の顕彰方法 …… ニュース、銘板により顕彰致します。
※お手数ですが、匿名をご希望の場合は、その旨、ご連絡をお願い致します。



「教育は百年の大計」 大妻女子大学名誉学長・東京都立大学元総長 佐野博敏

大学セミナーハウスが発足して半世紀が近づく。大学教員の一利用者として、新入生歓迎、大学紛争、さらに大学改革の問題への参加・討論などの思い出や多くの方々との出会いが懐かしくよみがえる。

大地にくさびを打ち込む形の本館もそのユニークさで評判になった。しかし四半世紀以上も経て、ハウスの理事長や館長として経験してみると、楔形の本館の斜めの壁面には書棚の配置も難しく、永年の間には垂直の壁に比べて埃や汚れも貯まり易いには困惑させられた。

その貯まった塵埃が象徴したのか、その頃には各種の「立派な」活動とは裏腹のおぞましき規範無視の弊害や因襲の存在に戦慄させられ、宿痾と闘いながらの故岡宏子館長と共に何とか改革はできたが、教育の基本を考えさせられた。その後に岡館長の寿命の尽きたのは残念であったが、追悼式に皇后陛下のご来館を戴いたのは有難いことであった。

開館当初は意図的に設けられていなかった手すりなども最近では随所に整備され、ウォシュレットまで持つ宿泊設備を備えた優しいセミナーハウスに生まれ変わりつつある。半世紀をかけて教育に素直さや優しさの重要性が認められてきた時代の流れであろうか。教育は百年の大計と言われるが、世紀を超えて今後ともハウスの素直で健康な成長を期待したい。



「開館50周年に寄せて」 白鷗大学学長・早稲田大学元総長 奥島孝康

大学セミナーハウスの開館は、私の大学を卒業した年であった。つまり、私には在学中1度もセミナーハウスなどで合宿して討論するなどというぜいたくな経験をする機会がなかった。中学・高校まではボーイスカウトで年中キャンプを楽しみ、テントの中で仲間と実に濃厚な時間を過ごした私にとって、大学の仲間とそうした時間を共有する機会がなかったことは真に残念であった。

だから、教員としてゼミを担当するようになると、セミナーハウスを利用してゼミ合宿を大々的に行ない、その結果、わがゼミの団結力は全学に鳴りひびいた。セミナーハウスの1日は、通常の授業の優に5回分以上の効果があるばかりか、ゼミのまとまりを強めるといふ大きなおまけがある。そして、これこそが大学時代を充実して過ごすことができるか否かの決め手なのである。



セミナーハウス50年の「不易」と「流行」 大妻女子大学学長 荻上紘一

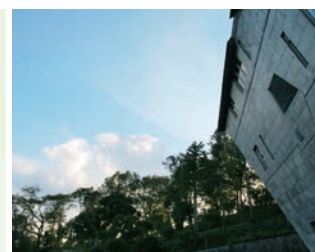
大学セミナーハウスの基本理念のキーワードは「High Thinking」と「Plain Living」である。セミナーハウスにおいて、前者は「不易」であるが、後者は「流行」でなければならないと思う。

2004年に館長を拝命した時には、セミナーハウスの年間利用者数は24,000人程度、つまり25%程度の充足率であった。通常の旅館やホテルであれば、確実に倒産するレベルである。主たる原因は「Plain Living」の内容が開館当時と殆ど同じであり、時代の変化に対応出来ていなかったことである。さくら館の新築、バス・トイレの改善を中心とする既存の建物の改修などにより、35%程度の充足率まで回復したものの、建物の老朽化の進行に改修が追いつかない状況が続いており、苦戦を強いられている。

かつてのセミナーハウスにはなかった「営業努力」、「サービス」などの概念が芽生え、根付いたことは大きな変化であるが、ハード面の「流行」遅れは依然として深刻である。就中、食堂が現代の「Plain Living」に対応出来ていない状況は一刻も早く改善しなければならないと考える。現在の食堂を、現代の「Plain Living」に対応出来る様に改修することは不可能と判断し、食堂棟の新築を50周年記念事業の柱に据えている。新食堂棟がセミナーハウスの発展に繋がる「流行」をもたらすことを願って已まない。

沿革

開館準備	1961年	財団法人大学セミナーハウス設立発起人会を開催
	1962年	建設敷地を都下南多摩由木村に決定 財団法人大学セミナーハウス設立認可 設立発起人校(国公立13校)を母体に協力会員校制度発足
	1965年	開館 開館記念・第1回大学共同セミナーを開講 本館、ユニットハウス、中央セミナー館落成
開館 10周年	1967年	講堂、図書館落成 千人会(維持後援会)発足
	1968年	テニスコート、松下館(教師館)落成
	1970年	長期セミナー館・大セミナー室落成 第1回大学教員懇談会(現大学教員セミナー)を開催
	1972年	第1回国際学生セミナーを開催 創立10周年・開館7周年
	1973年	野外ステージ落成
	1975年	大学院セミナー館落成 多摩の民家・遠来荘移築復元 千人会の会員が1,000人を超える
	15周年	1977年
1978年		交友館、国際セミナー館落成 第100回記念大学共同セミナー
1979年		第1回大学院共同セミナーを開催
1980年		開館15周年記念会を開催
20周年	1981年	準協力会員校制度発足 第1回大学合同セミナーを開催
	1982年	大学教員懇談会企画委員会発足
	1985年	ニュース「セミナー・ハウス」創刊100号記念号発行 開館20周年記念会を開催
30周年	1988年	「100万人達成を祝う会」を開催
	1989年	開館20周年記念館(インターナショナル・ロッジ)落成
	1990年	第1回大学教員研修(FD)プログラムを開催
	1995年	開館30周年記念会を開催
40周年	1999年	第1回大学職員研修プログラム(後の大学職員セミナー)を開催
	2004年	第1回公開セミナー「海のロマンと日本の古代 ～古田武彦先生を囲んで～」(後の古代史セミナー)
50周年 に向けて	2005年	留学生会館落成 開館40周年記念会を開催
	2006年	さくら館落成
	2007年	第1回国際教養セミナーを開催 第1回大学教職員のためのFDセミナー(共催:法政大学)を開催
	2008年	第1回大学セミナーハウスFD研究会(共催:立教大学)を開催 第1回教員免許状更新講習を開催
	2011年	財団法人から公益財団法人に移行 第1回新任教員研修セミナーを開催
	2012年	開館50周年記念事業スタート アートビレッジ開村
	2013年	「学生のための総合アートセミナー」スタート SPAコース竣工(第1期、ローエレメント7種導入)
	2014年	SPAプログラムスタート



募金委員会・お問い合わせ先

開館50周年記念事業 募金委員会

委員長	〔理事長〕	佐藤 東洋士	桜美林学園理事長
副委員長	〔評議員会議長〕	佐野 博敏	大妻女子大学名誉学長
	〔館長〕	鈴木 康司	中央大学元学長
	〔専務理事〕	程島 俊介	大学セミナーハウス

委員

〔理事〕	小川 哲生	明星学苑副理事長
	荻上 紘一	大妻女子大学学長
	佐藤 和人	日本女子大学学長・理事長
	鈴木 典比古	国際教養大学学長
	仙波 憲一	青山学院大学学長
	増田 壽男	法政大学前総長
	山内 進	一橋大学学長

〔評議員〕

安西 祐一郎	日本学術振興会理事長
石森 孝志	八王子市長
上野 淳	首都大学東京大学院特任教授
大井 孝	国際教育振興会理事長
川島 堅二	恵泉女学園大学学長
小磯 明	東京都議会議員
小畑 秀文	国立高等専門学校機構理事長
篠田 節子	作家
高石 道明	信州大学元教授
福井 憲彦	学習院大学前学長
福田 一郎	東京女子大学名誉教授
福宮 賢一	明治大学学長
村田 雄二郎	東京大学大学院教授
山本 眞一	桜美林大学大学院教授
鷺山 恭彦	東京学芸大学名誉教授

〔会員校〕

永田 恭介	筑波大学学長
梶谷 誠	電気通信大学前学長
立石 博高	東京外国語大学学長
加藤 富美子	東京学芸大学教授
松永 是	東京農工大学学長
鈴木 秀雄	日本大学学生支援部長
鈴木 邦雄	横浜国立大学学長
吉岡 知哉	立教大学総長
紙屋 敦之	早稲田大学理事

〔賛助会員〕

二宮 一郎	幼体連スポーツクラブ理事長
-------	---------------

事務局 事務組織部門の管理職および総合戦略グループと総務グループ

個人情報の取り扱いについて

ご寄附に関して、本法人が取得しました個人情報につきましては、本募金に関する業務（御礼状・領収証の送付、ご寄附芳名録作成、セミナーハウスニュースへの掲載等）にのみ利用させていただきます。

お問い合わせについて

資料請求、募金の詳細やお振込方法などご不明な場合は、下記までご連絡ください。

公益財団法人 大学セミナーハウス 開館50周年記念事業 募金委員会 事務局

住所：〒192-0372 東京都八王子市下柚木 1987-1

TEL：042-676-8512 FAX：042-676-1220

E-mail：iush50bokin@seminarhouse.or.jp